

# 首都圏初の電話リクエスト番組 四谷村音楽番組こばれ話

題字 中川 順

木	金	土	日	午後
アミーリー・ミュージック (西武面鏡店)				
ベルトード 花形歌手座場	ニッポンのコース (中島製菓店)	三橋美都子ショーアップ (光洋端工)	記名会見	会見独創会 (日光旅館)
日立ガセット	阪代劇場	シャボン玉大使	トヨ山音楽	6/27 晩9時
(東) (日立製作所)	(国鉄バブル)	(モナインアルコ油)	(味覚)	8時半の電車
人々の音楽 (大正製薬)				リクエスト
機材購入会				9/25 月曜日
この歌 (六黒ブドウ酒)				8時半
山本富士子アワー	弘と貴子の三つの歌	波曲亭	アーティファーム	
(東) (辰巳石蔵) (古松製薬)	(大正製薬)	(アーティファーム)	(モナ化粧品)	
ニュース (火木土、佐藤洋一) (日 田代謙)				
ヨンアワー	平凡アワー	トリストリアル	石原裕次郎アワー	暮人ジャズのピタヤ
(ヨン) (無鉛平兄) (暮 年)	(暮 年)	(暮合 嘉之助)	(スパイヘルズ)	波曲亭合戦
高崎	久慈アワー	ほがらかさん	雪田演芸会	歌のD.P.E.
(辰巳) (ベルマン ピカター) (東洋レーベン)	(暮 年)	(暮 作製所)	(波曲亭)	エアヒットパレード
曲 東海 美女伝 (大正製薬)				(波日本化粧)
ハイライト (日 水 金 日 ニッカ、ライズキー) (火木土 白鳴放)				
癡態 大学医歯薬院	大学文理薬院	大学医歯薬院	大学医歯薬院	大学医歯薬院
英研究 英文法	英語	英語	英語	英語
経営 総合企画研究	和 英	和 英	和 英	和 英
経営 古 文	教 五	教 五	現代文	日経講書部

昭和33年6月のタイムテーブル

電話リクエスト（電リク）番組は、今では文化放送の専売特許のようになつてゐるが、首都圏初の電リクはラジオ東京（現TBS）が昭和27年（1952）に始めた『イングリッシュ・アワー』だと、ジョッキーの志摩夕起夫さんから聞いた記憶がある。

通常は月～金曜の夜11時30分から深夜1時の番組だが、毎月最終土曜やクリスマスなどには放送を延長、電リク特集だった。その夜は報道の当直だらうと電話受けに駆り出されただけでなくペギー葉山や鈴木章二らスタッフの友人たちも駆けつけたといふ。この電リクのやり方を教えたのは神戸放送（現ラジオ関西）からラジオ東京に来たディレクターだ。

神戸放送の開局は『イングリッシュ・アワー』の開始と同じ27年4月1日だからこの局は開局前から斬新な企画を練っていたのだろう。

クラシックでは売れない  
つぶせ！

話はそれだが、開局当初の文化放送は日本文化放送協会という力トリック系財團法人だった。私は

昭和28年3月入社。民放は営業を知らなくてはだめだという理由で、3年間営業を勤め、31年に音楽部に移つた。この年の2月、会社は株式会社文化放送になつていた。

音楽部長は著名なクラシック音楽評論家・有坂愛彦で、部員も錚々たる専門ディレクターが揃い、開局当時は、全番組の60%近くがクラシック音楽だった。

こんな話がある。先輩のT氏がレコード室勤務になつて驚いた。購入レコードの90%がクラシックなのだ。当時、まだポップスという言葉はなかつたが、音楽には、歌謡曲やジャズもラテンもある。直ぐ出入りのレコード店を呼びつけ「今後オレの注文した以外のレコードは金を払わんぞ！」と言つたまでは威勢よかつたが、次の人事異動で飛ばされた。今にして思



プロデューサーDJだった当時の筆者

うと有坂さんは自分の理想のクラシック専門局を創りたかったのではないか。われわれ営業部がそれをぶち壊していった。

初代営業部長は後のQR社長・

岩本さんで「番組は営業が作るものだ。売れる企画を練り、スポンサーをつける。クラシックでは売れない、つぶせ!」。新人の私たちはその言葉で随分、編成、制作とケンカした。思えば面白かった。その営業の先兵を自負した新人が音楽部にやつてきた。有坂部長もさぞ困ったことだったと思う。私はもともとクラシック好きで、特にドビュッシーだが、今更そんなことは言えない。全員に白い眼で見られてしまう気がした。

### 神戸で人気の電リクを

東京のゴールデンで

さて話を電リクに戻そう。昭和32年、大阪のモナ化粧品が、神戸放送の「電リク」の評判がいい。東京でも放送したいと言つて来た。日曜のゴールデンアワー一時間の生放送だ。だが音楽部の全員が反対した。番組の送出は2階のスタジオで、レコード室は3階にある。リクエストを聞いて階段を駆け上



当時の番宣広告

がつて曲を探す。その間5分以上はかかる。もしそのレコードが無かつたら? 誰かが他の番組で使っていたらどうする。生放送でそんな番組はできない!みんな沈黙した。前からリクエスト曲の受付を開始する。聴取者の名前と住所は区までにすれば30秒で一枚のカードがとれる。たとえば受け電話10台で放送前30分で600枚とれる。その間に、最初の15分、CM、TMを入れて3曲は選曲できる。希望はヒット曲が多い筈だ。ヒット曲を10曲も用意しておけば問題はない。聴取者の声は出さない。番組のテンポがなくなるから。全員が納得しない。聴取者の声

はできない!みんな沈黙した。こうしたらどうだろうかと私は提案した。放送の30分前か一時間前からリクエスト曲の受付を開始する。聴取者の名前と住所は区までにすれば30秒で一枚のカードがとれる。たとえば受け電話10台で放送前30分で600枚とれる。その間に、最初の15分、CM、TMを入れて3曲は選曲できる。希望はヒット曲が多い筈だ。ヒット曲を10曲も用意しておけば問題はない。聴取者の声は出さない。番組のテンポがなくなるから。

### 電話がパンクしますよ!

早速、技術と一緒に四谷電話局へ行つた。「困りますなあ。東京23区内に加入電話が50万台あります。そのうち5000台、いや500台が一度に集中してかけてきたら、うちの局はパンクします」。ラジオ東京の話をすると、「有楽町はオフィス街でうちとは規模が違うし、夜は無人になります。ここは住宅街ですからね。受けの電話はできるだけ台数を多く、話は短くして下さい。電話番号の末尾を今週は奇数、来週は偶数をと制限も」。

昭和32年9月29日、番組開始。こうして、東京でのゴールデンタイムの電リク『850万人のモナ電話リクエスト』が始まつた。モナの希望で前半歌謡曲、後半洋楽の構成、司会は吉本雅勇アナとアシスタントの女子アナ、850



電話を受けるスタジオ風景

めてくれと言いかねない雰囲気だつた。

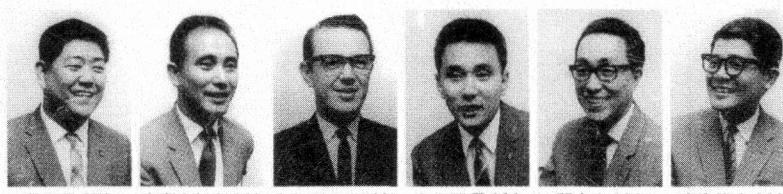
モナは2年半で降りたが、番組は続いた。田辺製薬が提供した時は日曜の午後に移った。

前CMは女性の生理痛用の薬だつた。ところが、CMを読むべき女性アナが本番直前にトイレに駆け込んでしまつた。本番スタート、止むを得ず吉本アナが読む。CMは女性の会話調だ。「…私この頃変なのヨ、アレになるとお腹が痛んで困るの…」、初見で下読みもしないから、男性口調に直すことも出来ない。約一分近く、私もミキサーも居たためなくなりコンソールの下に隠れてしまつた。立ち会つていたポンサーの課長が苦い顔をしていた。

聴取者との電話を生放送に出さなかつたのはよかつたと思う。番組のテンポもだが、いやな予感があつたのだ。数年後、新聞ラジオ欄の右隣の局でのことだ。昼ワイドで女子アナと話していた聴取者が、なんとあの四文字を叫んだのだ。「貴女としたい!」女性アナは絶句、ベテランの男性アナがうまくとり繕つたが、こういう手合いがいるから怖い。

### じゃあ、お前がDJやれ

スポンサーが代わつても「電リク」は続いた。1960年代、ボップス音楽隆盛の時代、QRは夜の番組をヤング層に絞つて、ナイトを止め、昭和39年、電リクを



往時のDJオールスターキャスト

D・Jは桑原アナ(月) 志摩夕起夫(火) ロイ・ジェームス(水) 吉本アーナ(木) 関光夫(金) 本多俊夫(土)。

『ハローポップス』と題して、1時間50分の帯番組にした。この時初めて電話番号を歌詩にした番組のジングルや、間違い電話は困りますなどの言葉も入れ、女性コーラス・ブラックキヤツツが歌つて番組に挿入した。

バトンタッチした。これがまた大変。土居は「オレ、君、そだろうな」で、それまでのNHK調のアナウンスではない、若者と仲間意識の兄貴分口調で売り出した、新しいパーソナリティだ。

ところが困つたことが起きた。今は亡き桑原アナは美文の原稿を読ませると都内中の女性が孕むといわれた程の美声なのだが、フリー・トーキングが不得手。それに横文字が苦手だった。私が横についていて横文字のタイトルをカナにして渡しても不安そうに読む、それが聴取者に分かってしまう。3ヵ月も経つとノイローゼ気味になつて、自分でも番組を降りたいと言い出した。新任の小柳制作部長に相談すると「うちで一番ボビュラーに詳しいのは誰だ」「それは私でしょう」とつい口に出してしまつたのが運のつき。「じゃお前やれ」。私が月曜のD・Jになつてしまつた。

私が一年喋つて、土居まさるに



若者の兄貴分・土居まさる

ゴールデンアワーともなると族も聴く、「なんだあの言葉は、教育上よくない。責任者を出せ!」と年中叱りの電話。「今後気をつけます」と一応謝るもの、土居には「かまわんからヤレヤレ、そのうち慣れる」とけしかけた。『電リク・ハロー・ポップス』は、1960年代のビートルズを頂点に、アメリカンポップス、ニューフォーク、ボサノバ、R&Bソウル、カンツォーネ、シャンソン等あらゆるジャンルの曲を紹介してポップス界をリードした。



1969年サンレモ音楽祭での土居まさるとジリオア・チングエッティ(右)

ある時、RCAのディレクターから「シリヴィ・バルタンはシャンソンじゃない、ロックだと言う評論家の先生がいらして困っています。どちらかに区分しないと」と相談された。「フランス人がフランス語で歌っているんだからシャンソンさ。そうだな、新しいイメージを出すためにフレンチポップスというのはどうだい」、「それ頂きます」。以来、日本では

フレンチ・ポップスというへんてるんです。どちらかに区分しないとー」と相談された。

フレンチ・ポップスというへんてこなジャンルが生まれた。

## 天災Ⅱ 天才フランス・レイのマイクを下げる

フランスといえば「電リク」でも大変リクエストが多かったのが、フランス・レイの曲で『男と女』『白い恋人たち』『ある愛の詩』など、レイを招聘してQRの持つ日本フィル交響楽団とコンサートをする企画が実現した。

最近出版された『昔ここにラジオ局があった』(東洋書店)でも触れているが、信じられない展開になつた。

いざ来日して打ち合せの時だ、オーケストラやマイクのセットのためスコアを見せてもらつたところ、フランス・レイのパートがない。彼はシャンソンの女王エディット・ピアフの最晩年の頃、彼女の自宅練習の伴奏にスタッフが連れてきた独学のアコーディオニストで、口ずさむメロディメイカーとして天才的だったが、譜面はろくに読めなかつたのだ。ピアフと舞台に出たこともオーケストラと共に演したことなどないのだ。一

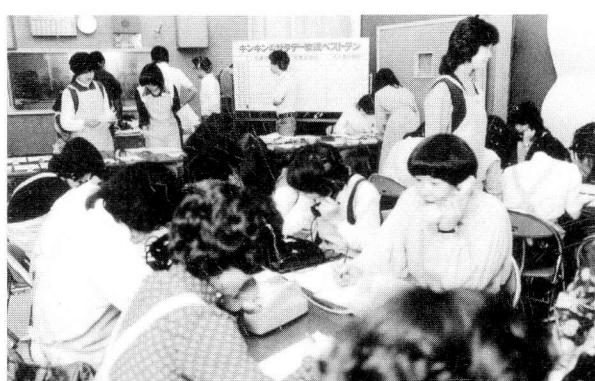
緒に来日したクリスチヤン・ゴーベルというかなり知られたピアニストが編曲し、指揮もするといふ。レイは舞台には出ない!といふ。それではフランス・レイコンサートにならないので、中央に置くコンサートピアノの横にマイクを一本立て、舞台上がつてもらうこととした。3曲目に拍手に迎えられて彼はアコーディオンを抱いて登場したが、弾いているのか、いないのか呆然としていた。マネージャーが技術室に飛んできて、レイのマイクを下げるという。

「ハーモニーが狂うから直ぐにきつた」と云うと安心して出ていった。広い武道館なので何一つボロが出なくてよかつた。レイの尻を思いい切り蹴つとばしてやりたがったが、天真爛漫、ケロツとして憎めないのだ。こんな困つことはない。困つたことといえばもう一つ。火曜会との共同制作で『9500万人のポピュラー・リクエスト』という番組をやつていた。34社

## 姿は変わつても

### 『電リク』は永遠に

ところで、『電リク・ハロー・ポップス』は昭和44年に終了したが、



『キンキンのサタデー歌謡ベストテン』の風景



浜松町の新社屋(山手線から)

この形式は思い出されたように番組に使われている。昭和54年にスタートした『キンキンの火曜ベストテン』(昭和58年終了)。

平成4年のナイター・オフにスタートした『電リク・トキメキ俱楽部』は、月曜から木曜の編成で8年続いた。

現在も、平成17年の10月から、これもナイター・オフでスタートした『電リク・ハローパーティ』(火～金曜の午後6時半～9時)。

レギュラー編成では『サタデー歌謡ベスト・テン』(日曜午後1時から4時までの『キンキンのサンデー・ラジオ』など、いずれも電りクである。が、昔とは姿かたちが変わっている。『電リク』と名乗る以上、電話は2、3台置いてあるが、ほとんどがメールとFAXになつていています。

■ 民放クラブ事務局にパソコンが設置されました  
アドレスは次の通りです。  
[minpok@world.ocn.ne.jp](mailto:minpok@world.ocn.ne.jp)  
今後事務連絡や情報交換などに利用下さるようお願いします。

社屋も四谷から浜松町へ。「電リク」は名前だけ残って今では新兵器に変わっている。

関西民放クラブの編集担当として会報の全国会議でも活発に発言された澤村大司さんが亡くなられました。御冥福をお祈りします。

#### 写真提供

『50YEARS 文化放送』

『昔ここにラジオがあつた』

— 四谷村物語 —

金子 貞男氏

■伊豆山グリーンクラブ

閉鎖のお知らせ

同好会活動やご家族旅行で皆さんにご利用頂いた、伊豆山グリーンクラブが、3月末で閉鎖されることになりました。

閉鎖前は、大変混み合うことが予想されますので、ご利用の方は、事務局にお問い合わせください。

私の高校時代からの同級生で、関西民放クラブの理事も勤めていたテレビ大阪出身の澤村大司君が、去る十一月八日に亡くなつた。

今年一月の定例理事会で、いつも通り隣に座つた彼が「年賀状は欠礼したよ」と言う。「どうも億劫で」と。その後、携帯に「検査で入院した」との伝言メモが録音されていたのが、私が聞いた彼の最後の言葉となつてしまつた。

その後、脳内に腫瘍が発見され一月末に大学付属病院で放射線治療を受けた夜に脳内出血を起こし、緊急手術の結果、右半身不隨に加えて全く言葉を発せられなくなり、意思を伝える手段を完全に失つてしまつた。その後、奥様は宇治の自宅か

ら京都の病院まで毎日看病に通い続けられ、息子さんは休日の一週間に、娘さんは最後には勤めを休職されてまで懸命に看病されたが、年を越すことなく亡くなつてしまつた。

日経新聞からテレビ大阪へ移った彼は、行動力があり世話をきだつたため、関西民放クラブでも会報委員長や各同好会の世話を進んで引き受けくれた。ジヤズと酒が好きで大勢でにぎやかに騒ぐのが好きな男だった。

あの世で暫くは幹事などは引き受けず、ゆっくり休んでほしい。我々が彼の元へ行つた時、「えらい遅かつたやないか」と、あの笑顔で迎えてくれそうな気がする。

#### 澤村大司さんを偲ぶ

佐脇 俊朗 (YTV)